

## 北斎の帰還 ―幻の絵巻と名品コレクション

すみだ北斎美術館（東京・両国） 2016. 11. 22～2017. 01. 15

「すみだ北斎美術館」は、江戸時代の浮世絵師「葛飾北斎」（1760～1849）が墨田区亀沢生まれで、その生涯の大半を区内で過ごしたため、墨田区がこの偉人を顕彰し地域振興の一環として2016年11月に新規オープンした施設である。

公式サイト「<http://hokusai-museum.jp/>」 参照 雑誌「東京人」31：(15) ‘16

「北斎」の作品は、1867年パリ万国博覧会を皮切りに“ジャポニズム（日本趣味）”が起こり、その大胆な構図や明るい色彩は、従来のヨーロッパの絵画には無かったもので、ヨーロッパ絵画に大きな影響を与え「印象派」誕生のきっかけとなったとされている。画伯が70年にもわたり描き続けた多彩な作品は、没後160年も経たない今日益々高い評価を得て世界の芸術家として注目されている。

「北斎」に影響を受けた芸術家は多く、画家では「ゴッホ」「ドガ」「リヴィエール」、ガラス工芸家「ガレ」、音楽家「ドビッシー」などが知られている。



開館記念として開催される「北斎の帰還展覧会」では、およそ100年も所在不明であった、幻の肉筆画と伝わる絵巻物「隅田川兩岸景色図鑑」（上）が目玉として展示されている。この作品は、「北斎」が46歳頃に手がけたとされる28.5x633.5cmのかなり大きな肉筆画で、“浅草・柳橋、両国橋付近から船で墨田川を上った男たちが、吉原遊郭に向かう風景”が巧妙に描かれている。



他の展示品は、「富嶽三十六景」や墨田区が舞台となった浮世絵「忠臣蔵討入」（左）などの名作品が、常設展示室では、映像や作品のレプリカなどを用いながら“墨田と北斎の関わりや生涯の画風の変化など”が紹介されている。